

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5

TEL.0267-31-0250 (代)

FAX.0267-31-0140

http://www.pref.nagano.lg.jp/

toshinkyō/index.html

平成 31 年(2019 年)1 月 30 日(水) 発行 No.8

東信教育事務所だより「響」

今年度から
スタート

連載「響く声」

単元訪問の様子をお知らせします。

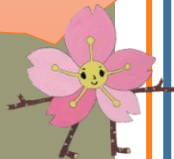
—No.8 の内容—

- ◆連載「響く声」
単元訪問から
- ◆特集「学校訪問より」
ゾーン訪問～継続的ニーズ
に応じた訪問支援～
- ◆特集「小学校外国語教育」
- ◆舎窓から
- ◆生涯教育課より

1 回目は、まず単
元で育成する資
質・能力を確認
してからスタート
したんだよ。



1 時間の授業だけ
の支援（点）では
なく、単元全体を
見通した支援
（面）なのよ。



単元訪問の ポイント？

- ①単元訪問は 3 回の訪問が基本です！
- ②単元の構想段階から先生方と指導主事が一緒に考えます！
- ③単元終了後に成果と課題を振り返り、授業改善の方向性を共有します！

1回目

指導主事と一緒に「単元構想シート」を使って「たしざん(2)」の構想スタート！

先生方と指導主事が一緒に、下の①～③を考え合いました。(1 時間訪問)

① 単元の目標を達成し
た子どもの具体的な姿



「10 のまとまりを作るために、あといく
つで 10 になるかを考えて、10 と残り
の数をたせば計算ができる」と発言や記
述ができる子どもの姿になってほしい。

② 働かせる見方・考え方



10 のまとまりを作ることに着目して、
数を分解して考察することね。

③ 単元の指導のポイント



『さくらんぼ』で考えることがポイントだな。

構想

2回目

1 学年 4 クラスが、同じ授業場面を公開し合いました。(2 時間訪問)



$$\begin{array}{r} 7 + 4 \\ 3 \quad \swarrow \quad \searrow \quad 1 \\ \quad \quad 3 \quad \quad \end{array}$$

3 を 7 に近づけて
10 をイメージする工夫

$$\begin{array}{r} 7 + 4 \\ \textcircled{3} \quad \textcircled{1} \\ \hline 10 \end{array}$$

3 と 7 で
10 が見える工夫



実践

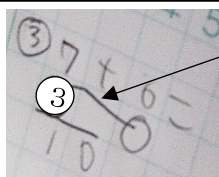
3回目

先生方のよさや子どもの様子の振り返りから、今後の指導の
ポイントが共有できました。(1 時間訪問)

(一人で練習問題に取り組
んだ A さんが...)
10 のまとまりをつく
ればいい。だから左の
○には 3 が入る。右の
○には...?



どの数を分けるのかが分からないのかも！



「どの数」をさくらんぼで
分けるのかに気付いていな
いようだ。そこが指導のポ
イントだな。

振り返り

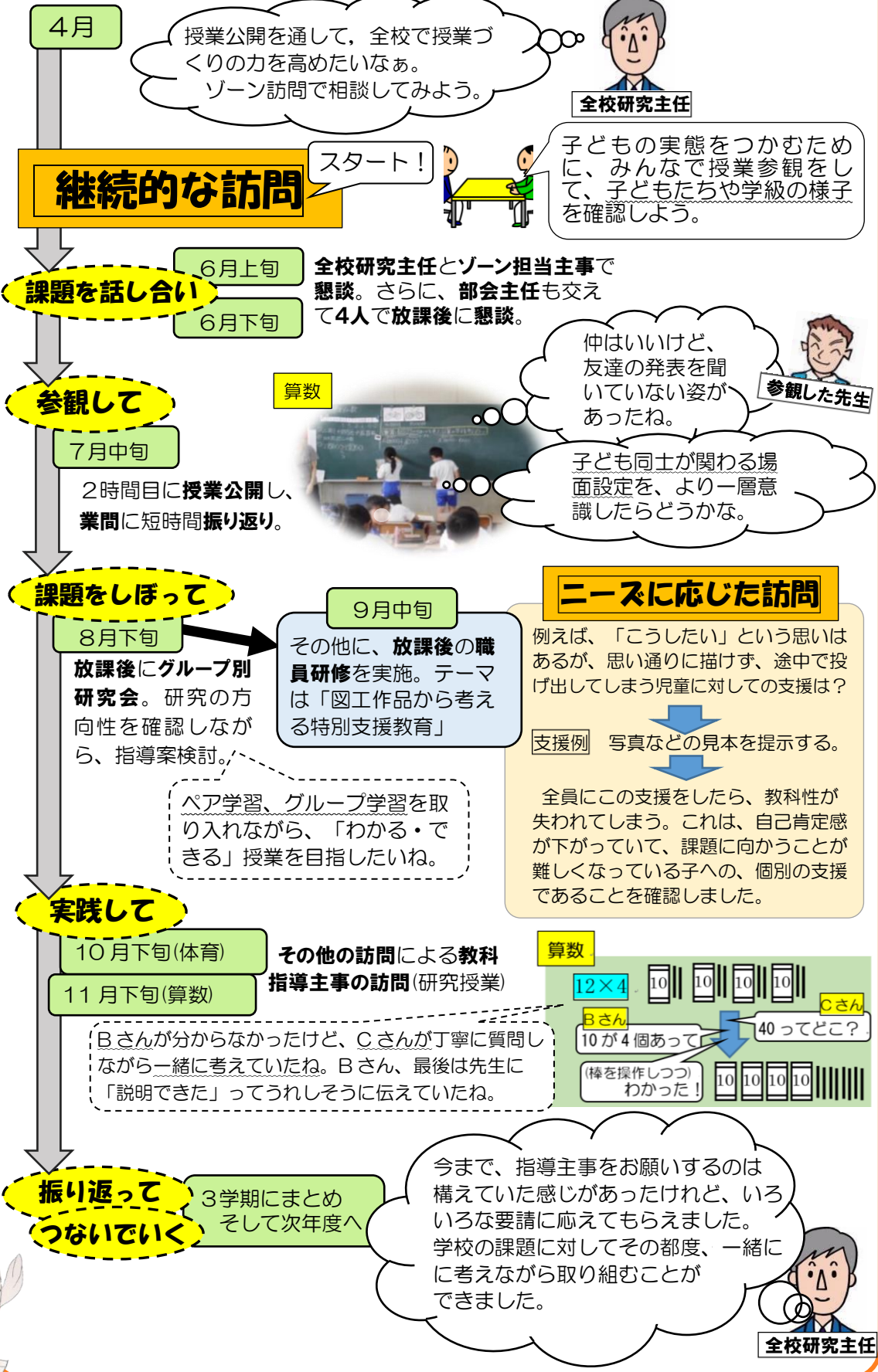
授業づくりの力が高まることを目指したゾーン訪問

特集
「学校訪問から」
ゾーン訪問



ゾーン訪問
って、気軽に
相談でき
そうですね。

ゾーン担当
の指導主事
と一緒に、
研究を進め
たんだね。



特集
「小学校
外国語教育」
私たち教師が
取り組むこと

“Rome was not
built in a day.”で
すね！！



新しい学習指導要領の全面実施まで、あと1年あまり。
外国語教育の授業づくりで大切にしたいポイントをお伝えします！



① 児童の興味・関心のあることを把握していきましょう！

児童が興味・関心を示すような内容を、教材にある単元と結び付けて指導していきましょう。そうすることで、児童が「話したい！」「使ってみよう！」と思う内容を予想することができ、教材研究に生かすことができますね。



② やり取りを中心にした授業を行っていきましょう！

自分の言いたいことを表現したり対話を継続させたりする力は、すぐには身につけません。教師も児童も「英語を使いながら使えるようになる」という意識をもって、授業を行っていきましょう。



③ 児童の言いたいことを既習表現と結び付けられるようにしましょう！

その場でのやり取りができるようにするためには、「自分の言いたいこと」と「知っている表現」を結び付けて伝えることが必要ですね。やり取りの最中に教師がヒントを出したり、児童が考える機会を設けたりしていきましょう。

連載
「舎窓から」

「望み」

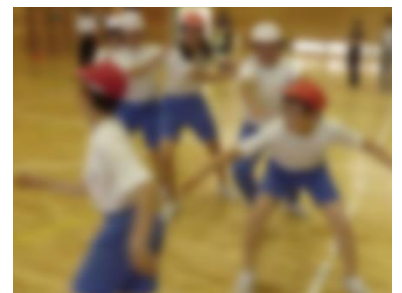
学校訪問での楽しみの一つに「会話」がある。廊下ですれ違う子供たちに聞いてみたくなること、それは、「学校で一番楽しいことは、何・・・？」ほんの一瞬の出来事だが、子供たちとのやりとりに心が温められる。そして初対面だが、その子の心の内が感じられることを不思議に思う。

「休み時間の遊び」「給食」「部活動」「友達とのおしゃべり」など、答えは三者三様。どんなことであれ、学校に来る楽しさをもっていることに、殊更うれしさを感じる。重ねて、本音で答えてくれる子供たちが見せる共通点にも、心癒される。それは、とびっきりの「笑顔」。何にも増して、この笑顔に元気をもらえるからだ。

しかし、たった一度だけ返ってきた「特に無い」。予想外の答えにハッとした。同時に、思わず顔を覗き込みそうになった。あの日以来、いつも思う。「この子にも、笑顔で答える何かが見つかってほしい」と。

誰にとっても、学校は毎日行きたくなる「楽しい場所」であってほしい、そう願わずにはられない。しかも、すべての子供たちにとって。

文責：清水 直人



※写真は加工してあります

働き盛りのあなた！ 運動できていますか？

生涯学習課

学校・PTAなど向け

おとなの運動研修に伺います

『県政モニターアンケート』の結果によりますと、成人の運動実施率の低下がここ数年課題になっています。特に働き盛りの20代～40代の実施率を高める必要があります。健康で明るい生活を送るために、運動は不可欠です。そこで、東信教育事務所では生涯学習課のスポーツ担当指導主事が職場を訪問し、皆様とともに健康維持増進のための実技指導を行います。職場や集団のコミュニケーションを高めることにも役立ちます。長い人生、健康で明るく過ごせるように運動を生活に取り入れましょう。お問い合わせは、0267-31-0252へお気軽にお電話ください。

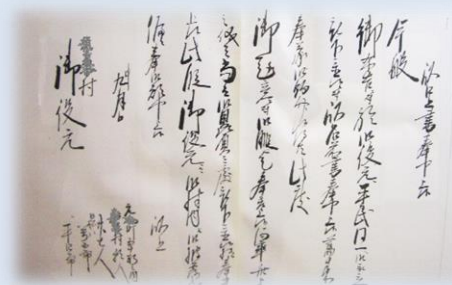
内容例

- ☆体力向上のための簡単トレーニング
- ☆昼休み、休憩時間にできるストレッチ
- ☆人間関係づくりのための運動・レク
- ☆手軽にできる運動の紹介 他



人権教育

部落史研究の現場から「差別からの『暇乞い状』」



長野県の部落史研究の第一人者でいらっしゃる斎藤洋一先生から紹介された古文書です。

このたびの解放令で、私たちも平民と同じになりましたので、平民と被差別民という関係からは暇乞いをさせていただきます。今後とも何卒ごひいきに。

詳しくは『人権つうしん』55号をご覧ください。

『人権つうしん』 ← [検索](#)

社会教育

「学校支援コーディネーター研修会」 12月18日・東信教育事務所講堂

学校と地域が連携・協働して子どもを育てていくことの重要性を学び合い、コーディネーターの次年度に向けての方向性を見出すために、発表者に野沢小の学校支援コーディネーターの元吉純子さん、上田市教委生涯学習・文化財課主事の伴美佐子さん、県教委文化財・生涯学習課指導主事の井口淳さんにそれぞれの立場から実践的な講話をしていただきました。その後、参加者の希望選択による分散会で、さらに内容を深めることができました。参加者からは「それぞれの立場からの理論的、実践的な話は今の本校のCSの現状と課題に鑑みて参考になりました」「地域・学校・保護者の協働活動がカギとなっていくと思いました」と感想をいただきました。

